

令和7年度第2回中央区地域支えあいづくり協議体(議事録)

日 時 令和8年1月9日(金) 10時00分～12時00分

場 所 中央区社会福祉協議会3階会議室

次 第

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 新任委員紹介
4. 各委員より報告
5. 議題
 - (1) 中央区高齢者施策推進室より報告
 - (2) 生活支援コーディネーターによる取組について
 - (3) 「支えあいのまちづくり協議体(第2層協議体)」実施報告
 - (4) 意見交換
自分自身の経験や強み、特技を活かした高齢者の地域参加について
6. 今後の協議体実施予定
7. 閉会

出席委員(敬称略:順不同、◎:会長)

◎射場 典子	聖路加国際大学 国際・地域連携医センターPCC 開発・地域連携室
清水 学	民生・児童委員協議会 京橋地域高齢福祉部会
宮下 一雄	民生・児童委員協議会 日本橋地域高齢福祉部会
中島 圭一	京橋おとしより相談センター
保田 奈奈	日本橋おとしより相談センター
石川 紫	月島おとしより相談センター
加久 哲也	中央区桜川敬老館孤立防止・生きがい推進担当
岩崎 千春	中央区勝どき敬老館孤立防止・生きがい推進担当
黒川 眞	中央区社会福祉協議会 事務局長
安部 信之	中央区社会福祉協議会 地域支援部ささえあい課長 (第1層生活支援コーディネーター)
田部井 久	中央区高齢者施策推進室長
阿部 志穂	中央区福祉保健部高齢者福祉課長
河内 武志	中央区福祉保健部介護保険課長

欠席委員(敬称略)

上野 双葉	民生・児童委員協議会 月島地域高齢福祉部会
遠藤 馨	中央区浜町敬老館孤立防止・生きがい推進担当

配布資料

資料1	中央区地域支えあいづくり協議体運営要綱
資料2	地域見守りネットワーク
資料3	見守り協定事業者募集チラシ
資料4	フレイル予防フェアチラシ
資料5	高齢者通いの場マップ
資料6	認知症カフェ実施状況一覧
資料7	もの忘れ予防検診勧奨はがき
資料8	生活支援コーディネーターによる取り組みについて
資料9	支えあいのまちづくり協議体(第2層協議体)実施報告

各委員からの報告:「最近の高齢者の生活の様子について」

【京橋地区】

・いきいき桜川(敬老館)の利用者数は前年度より月平均で約100人増加し、年間約3万7,000人規模の見込み。12月のリサイクルデーには開館前に30~40人が並ぶ盛況ぶりだったが、インフルエンザによる保育園との交流延期や、利用者が講座参加中に低血糖により救急搬送されるなど、体調管理への注視が必要な事例も報告された。

- ・「築地集いの場」など 4 カ所で通いの場を開催しているが、参加者は毎回 9～10 名前後にとどまっており、地域の高齢者人口に対してまだ少ないことが課題。
- ・認知症カフェ(明石町カフェ)や家族介護者向けの「サンサンサロン」の運営や、難聴と認知症に関する福祉講座の開催など、おとしより相談センターでは専門的な支援と相談窓口の周知に注力している。

【日本橋地域】

- ・マンション化が進む地域特性上、高齢者が大切にしている尊厳に配慮しつつ、関わる際には工夫が必要だと感じている。安否確認のため、マンション管理人と連携して情報を得る体制を整えている
- ・いきいき浜町(敬老館)に毎日通っていた独居高齢者が入院した際、他の利用者や職員が心配して連絡し続け、退院後に拍手で迎えられた。いきいき館(敬老館)が「心の支え」や「安否確認の拠点」として機能している。

【月島地域】

- ・いきいき勝どき(敬老館)では孤立防止のため、来館の途絶えている利用者に電話する「お元気ですかコール」を実施中だが、詐欺防止意識の高まりから電話に出てくれないケースが増えている。また、利用者のなかでも若年層(60 代～)向けに土日にハードなエアロビクス講座を企画し、即日満員になるほどの人気を得ている。
- ・おとしより相談センターでは小学校での「認知症サポーター養成講座」に注力している。受講した子供たちから「困っている高齢者に自ら声をかけたい」といった前向きな感想が寄せられ、多世代への普及に手応えを感じている。

議題説明

- (1) 中央区高齢者施策推進室より報告
- (2) 生活支援コーディネーターによる取組について安部委員より報告
- (3)「支えあいのまちづくり協議体(第 2 層協議体)」について事務局より実施報告(4)意見交換(グループワーク)

テーマ:「自分自身の経験や強み、特技を活かした高齢者の地域参加について」

【京橋地域】

現状の高齢者の地域参加について

・京橋地域には、工場経営者として地域活動に関わっていた人がいたり、いきいき館(敬老館)のイベントで元シニアセンター職員やシルバー人材センターの人材が講師・相談員として活躍していたりする。

・こうした地域活動への意欲がある人を見つけ、いきいき館(敬老館)の講師やスタッフとして参加してもらう仕組みづくりが必要だと考えられる。

参加促進の具体案について

・特技や経験を活かす参加は理想的だが、退職後は仕事を思い出すことを避けたい人もいるため、テーマを限定せず参加しやすい活動が必要。

・例として、公園のごみ拾いは短時間で気軽に参加でき、その後の交流につながるケースもある。

・料理教室に参加した人の中には教室で学んだメニューを家庭で振る舞い、家族から感謝されたことで、本人の継続意欲につながった事例もある。

地域参加を目指すネットワークづくりについて

・地域住民の中には外出の機会が少なく、社会とのつながりが希薄になっている人もいる。

・外出のきっかけとなる社会資源(サロン、通いの場、活動一覧)を一つにまとめた媒体があると、本人のニーズに合わせて紹介しやすい。

・また、関係機関が連携し、地域内で活躍が見込める場所や取り組みの情報を共有することで、地域参加を支えるネットワーク機能が強化される。

【日本橋地域】

・高齢者は寒い季節に外に出てこない傾向がある。

・高齢者ではあるが仕事をしている住民が多く、平日に地域活動をするのは難しい。

・オートロックのため地域住民との接触が難しい。

・日本橋おとしより相談センターでは活動を行いたいという高齢者は見られず、家庭についての相談は奥さんが多く男性が相談する姿についても見られない。

・R65 月島カフェの主催者など地域活動に意欲的で社会的な男性は地域に少ない印象を受けた。

・イベントに参加する高齢者も見られるが、活動運営などの地域参加にはつながっていない。

・町会などでは基本的に個別にお声掛けをして人員を確保しているため、その方式で人材を発掘し、いかにつなぎとめるかが鍵ではないか。

【月島地域】

男性参加の特徴について

・麻雀や囲碁など「順番が回ってくる」活動は男性に人気。

・ゆるくつながれる場も必要。役割を与えると喜ばれる事例あり(保育園との交流で手紙を渡す役割など)。

・男性限定の介護教室や交流の場のニーズがある。

運営・仕組みについて

・「HF 交流広場」は男性が運営し、健康麻雀を中心に毎週開催。役割分担や仕組み作りがうまくいっている。

・サロンやカフェでは広いスペースや「居心地の良さ」が参加継続に影響。

情報発信の課題について

・区のおしらせ「ちゅうおう」や紙媒体による情報発信は有効だが、全世帯に配布しているものではない。

- ・男性は口コミで情報を得にくい。男性向けイベント情報が見えにくい。
- ・サロンマップなど公式情報に「男性が多い」「男性主催」などの記載が不足。

今後のアイデアについて

- ・男性向け介護教室や「男性だけで話せる場」の設置。
- ・敷居の低い活動(ゴミ拾い、料理教室など)で参加のきっかけを作る。
- ・感謝される体験や「必要とされている感」を提供することが重要。

【会長の総括】

いきいき館(敬老館)やサロンなど既存の地域資源につながるきっかけづくりについて多くの意見が出され、有意義な意見交換となった。特に、「まずは参加のきっかけさえあれば、地域とのつながりを持てる」という視点は、委員の間で共通して確認された重要なポイントだった。

また、地域ですでに活躍している高齢者や、意欲のある方が自然に参加できる仕組みづくりの必要性についても、多くの意見が寄せられた。これらの議論を通して、地域参加を広げていくための可能性や具体的な方向性が見えてきたように思う。

今回出された意見や提案については、事務局より各地域の支えあいのまちづくり協議体等へ報告され、今後、実現に向けた検討が進められる予定である。委員の協力により、前向きで明るい将来像が見える協議となった。

【質疑応答】

質疑1:「通いの場」の活動数は? 休止団体がある場合、その理由は。

介護保険課より回答:本年度は一時23団体まで増加したが、京橋地域で経営上の判断により休止した団体がある。現在は22団体が活動している。

質疑2:「認知症カフェ」は、施設主体でないと運営が難しくなっているのか。住民主体での実施は可能か。

介護保険課より回答:認知症カフェは、認知症に関する一定の専門知識(認知症サポーター、キャラバンメイト、看護職等)が必要であり、専門職が関わるケースが多い。場所の確保も課題で、施設が実施しやすい状況はある。ただし、コミュニティルーム等の活用も検討しており、日本橋地域でも実施に向けた情報提供や相談を歓迎している。

社会福祉協議会より回答:京橋地域では民生委員が中心となった住民主体の「せいるかオレンジカフェ」が立ち上がっている。日本橋地域でも、ケアマネジャーから立ち上げ相談が寄せられており、住民主体のカフェも今後増える可能性がある。

質疑3:個別支援のうち、高齢者のケースはおとしより相談センターと共有しているか。また、生活支援コーディネーターとの連携状況が見えにくい。

社会福祉協議会より回答:中央区では生活支援コーディネーターが社協に配置されており、他自治体のように包括内に配置されていないため、連携の機会が少ない状況がある。

個別支援ではケースに応じて連携することもあるが、今後は情報交換の場を設けることも検討したい。「みんなの食堂」については、現在日本橋地域にはなく、月島・勝どき地区での実施が中心。

質疑4:おとしより相談センターとの共催事業はあるか。

社会福祉協議会より回答:共催事業は多くないが、認知症サポーター講座等で協力している。

質疑5:晴海フラッグで新たに立ち上がった通いの場について、立ち上げの経緯を知りたい。

介護保険課より回答:晴海フラッグ内の住民から相談があり、晴海フラッグ内のコミュニティルームを活用して実施する形となった。特定のグループではなく、晴海フラッグ住民が広く参加できる場として立ち上がった。行政側からの働きかけではなく、住民側からの相談を受けて調整した。